網走・北見・紋別ＩＣＴ指導者研修会

ＬＡＮなど環境整備を

ネットワークケーブルを作製

【網走発】網走・北見・紋別地区ＩＣＴ学習推進指導者研修会が四日から二日間、北見市立北光小学校をメーン会場に開催された。「実践的な学校ネットワーク」の演習では、ネットワークケーブルを自前で作製。講師は、ＬＡＮなどのインフラの必要性を示した上で、「教育に必要な環境は積極的に整備することが大事」と話していた。

主催は実行委とＮＰＯ法人ＩＬＡ（アイラ）。共催が網走管内コンピューター事務研究会とＮＰＯ法人ＮＥＸＴＤＡＹ。

ＩＣＴに関する専門的な知識・技術について研修を深め、ＩＣＴ学習推進の中核となる指導者の育成を図るのが目的。小中学校などの教員二十五人と、学校のネットワーク管理に取り組む事務職員八人が参加した。

研修内容は二つのコースに分けて実施。一つは道高等聾学校の新谷洋介教諭による「表計算ソフトとプレゼンテーションソフト～アドバンスト・リテラシー」、もう一つは道都大経営学部の由水伸教授による「実践的な学校ネットワーク～ネットワーク・スキルコース」。

このうち、「実践的な学校ネットワーク」では、初日に「ネットワークの物理的な構築とＴＣＰ／ＩＰによる通信の確立」について学習＝写真＝。有線・無線ＬＡＮの動作の理解と設定の基本を実践的に学んだ。

はじめに、ネットワークケーブルを作製。長さ一メートルほどのＵＴＰケーブルを使用した。ケーブルの外皮を端から二センチ程度切り取ると、中からねじれた八本の信号線が現れるので、指先でしごいて真っ直ぐに伸ばした。

信号線には色がついているので、左から白橙、橙、白緑、青などと規格に沿った色順に並べた。並んだ信号線をモジュラープラグにはめ、工具で締め付ければプラグが固定された。両端にプラグをつければ、ネットワークケーブルが完成。

主催者側の話によれば、①手慣れた業者は二～三分もあれば作製する②作製方法を知っていればプラグが壊れても自前で直せる③ケーブルの長さを調節できるので、自分の思いどおりのＬＡＮを巡らすことができる④外注するよりも低コストで済む―という。

由水教授は「ＬＡＮケーブルの決まりを百遍言うより、実際につくった方が理解は早い。学校現場に外部との通信が必要かという議論はあるが、ＬＡＮなどのインフラがあって使わないのと、なくて使えないのでは、当然前者の方がよい。教育に必要な環境は積極的に整備することが大事」と話していた。

演習では引き続き、無線ＬＡＮの使い方やセキュリティに関する学習を行った。

体験活動の指導力向上

網走局が初任者研宿泊研修実施

宿泊学習プログラム作成など

【網走発】網走教育局は五日から三日間、道立常呂少年自然の家で初任者研修「宿泊研修」を実施。様々な自然体験活動を展開し、参加者は体験活動に対する指導力を高めるとともに、校種を超えて交流を深めている。

野外での諸活動を通して、校外における活動の指導法の基礎を習得するとともに、参加者相互の交流を深め、教育活動の充実に役立てるのが目的。対象となる教員百六人が参加している。

初日と二日目は実践的研修として集団づくりネイチャーゲーム、火起こし、カヌー体験、ウォークラリーなどを実施。きょう三日目は、体験を踏まえて宿泊学習プログラムを作成・発表する。

初日の開会式では小形秀雄生涯学習課長があいさつ。①授業づくりに情熱を燃やす教師であってほしい②子どもに学び、自ら成長し続ける教師であってほしい―の二点を要請した。

特に授業づくりについては「子どもが人々や自然と直接かかわることで、それまで得た知識を実感を伴って深化させることが、まさに子どもの〝生きる力〟の育成につながる」と指摘。「自然の持つ教育力を十分に生かした授業づくりを進めるためにも、教師が自然体験活動の意義を理解して体験活動に対する指導力を高めることが大事」と強調した。

その上で「指導法の基礎的知識を習得するとともに、プログラムを作成する技能を身に付けていただきたい」と期待を寄せた。

また、「学校種を超えて交流できる貴重な機会である」として、「広い視野から教育公務員としての在り方について考えてほしい」と述べた。

自然の家の白井勝所長は「自然体験・社会活動体験を通じて子どもに豊かな人間性と社会性を育むことが求められている」とした上で、「野外教育や指導法を十分に学び、交流を深めるとともに今後の教育の充実に役立てていただきたい」と述べた。

桜庭望社会教育主幹は野外活動の意義について説明＝写真＝。「野外活動の基本はコミュニケーション」「教えるのではなく、やらせてみて自分で気づくようにしてほしい」「体験の振り返りをして、気づきの共有を」などと助言した。

このあと、参加者は宿泊学習プログラムの作成に向けて、様々な自然体験活動に取り組んだ。

一日図書館員に挑戦！

網走市立図書館で小学生10人

本の貸出や返却手続など

【網走発】小学生対象の「一日図書館員になろう」が五日、網走市立図書館で実施された。子どもたちが本の貸出や返却の手続きを体験＝写真＝。児童の一人は「借りる人は楽だけど、貸し出す人は大変なんだなと思った」と話していた。

図書館に親しんでもらい、職員の仕事内容を知ってもらうのが目的。四年生から六年生までの児童十人が参加。約二時間にわたって図書館の仕事に挑戦した。

この日、子どもたちはカウンターで本の貸出と返却の手続きを体験。とりわけバーコードを機械でピッと読み取る作業には関心を示した様子だった。ほか、棚に本を戻す作業や、持参した本にビニールカバーを張る作業なども体験した。

児童の一人、釜谷茉耶さん（南小六年）は「図書館には一週間に一度は来ている。どういう仕事をしているのか知りたかった。借りる人は楽だけど、貸し出しする人は大変なんだなと思った」と話していた。

図書館司書の佐藤新さんは「みんな一生懸命だった。これを機会に図書館と本に親しんでほしい。周りの人には、図書館の有効利用の方法を伝えてほしい」と期待を寄せた。

体験終了後には、児童全員に修了証が渡された。

自転車の安全運転誓う

網走南ヶ丘高校定時制

交通安全教室で実技と講話

【網走発】網走南ヶ丘高校（前川洋校長）定時制はこのほど、交通安全教室を開催した。生徒の通学手段に合わせて、自動車の実技講習と自転車の安全講話を実施。生徒たちは、あらためて運転者としての交通安全意識を高めた。

四輪で通学している生徒は、網走自動車学校で実技講習を受けた。酩酊状態を疑似体験できるゴーグルを着用し、いかに判断力が鈍るかを体感した。また、カーブでスピードを落とすことの必要性やシートベルト着用の大切さを再確認した。

一方、学校では網走警察署交通課の前川幸範課長が安全な自転車の乗り方について講話＝写真＝。傘差し運転や両耳にヘッドフォンを当てたままの運転が、法律上も違法で、事故が起きた場合は自転車の責任が問われたり、賠償責任が生じたりすることを伝えた。

最後に、三年生の生徒会長が「これから安全な自転車の運転をするように気持ちを新たにします」と誓いの言葉を述べた。

7日研究大会

網走管内小中教頭会

【網走発】網走管内小中学校教頭会（会長・後藤淳一北見市立三輪小教頭）はきょう七日、北見市内のホテル黒部で第三十七回研究大会を開催する。教育局の山尾幸正指導主幹が「今、教頭に期待すること」と題して講演する。

道家庭教育サポート企業等制度

丸田組など3社が調印

網走管内は合計17社に

【網走発】網走教育局は、網走市内の企業三社と道家庭教育サポート企業等制度にかかる協定を締結した。四日に網走総合庁舎で行われた調印式では、㈱丸田組の丸田孝一社長と森徳男局長が固く握手を交わした＝写真＝。丸田社長は「建設業の企業として、子どもたちが少しでも地元に落ち着いてくれるよう取り組んでいきたい」と協力を約束した。

同制度は、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等と教育長が協定を締結し、家庭教育の一層の推進を図るもの。網走管内ではこれまでに計十四社が締結している。

今回新たに網走市内の㈱丸田組、㈲フジヤ書店、㈱大成印刷の三社が協定を結んだ。

今月四日、㈱丸田組の丸田社長と丸田朗常務が教育局を訪問。丸田社長が協定書に署名した上で、今後の連携を誓って、森局長と固く握手を交わした。

同社は、十年以上にわたり地元高校の学校祭に対して足場などの設備を貸与。教育活動を人的・物的に支援している。今後、従業員の家庭に早寝・早起き・朝ごはん運動を働きかけるなど、生活リズム向上の取組も進める。

網走建設業協会副会長も務める丸田社長は「地域に根差してくれる子どもを育てないと地域がますます疲弊する。建設業の企業として雇用の場を広げ、子どもたちが少しでも地元に落ち着いてくれるよう取り組んでいきたい」と語った。

森局長は「教育と企業が共同で人づくりをすることが大事。たくましく地域に貢献できる人材を、今から育てる視点を企業と共有しなければ、北海道の未来はない」との考えを示した。

教育局によると、これまでの協定締結企業を含め、申込書による合意を得ている企業は、現時点で延べ三十九社。順次、協定を結ぶとしている。